

しあわせな飲む温泉

ヨーロッパ諸国で生まれた飲泉文化。

温泉地では、温泉医の処方によって飲泉所の新鮮な温泉を処方された量だけ飲泉しているそうです。

湯心亭の温泉は自家源泉。その自家源泉を『飲泉』に出来る数少ない貴重な温泉です。
北海道の後志管内では唯一の『飲泉(飲める温泉)』になります。※2023年9月現在調べ
浴場の温泉につかり美肌になり、フクロウ(不苦勞)の蛇口から出る新鮮な温泉を飲み
胃腸の血流も良くなり、身体の外も内もリフレッシュしていただけたらと思います。

泉質

ナトリウム-炭酸水素塩・硫酸塩・塩化物泉

源泉温度

31～33度 ※蛇口から出る飲泉用の温泉温度

飲み方

飲泉の目安は、1回につき100～150ml程度、1日の目安は200～500ml程度が良いとされています。

※ご用意している紙カップは「150ml」の大きさになります。

飲泉は沢山飲めば良いわけではなく、飲み過ぎるとかえって体調を崩すこともあるので注意が必要です。飲泉もほどほどが大事。

含有成分別禁忌症 (飲用)

該当項目なし

泉質別適応症 (飲用)

胃十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、耐糖能異常(糖尿病)、高尿酸血症(痛風)、胆道系機能障害、高コレステロール血症、便秘、萎縮性胃炎

《飲用の方法および注意》

- 飲泉療養に際しては、専門的知識を有する医師の指導を受けること。
また、服薬治療中の人は、主治医の意見を聴くこと。
- 15歳以下の人については、原則的には飲用を避けること。
ただし、専門的知識を有する医師の指導を受ける飲泉については例外とすること。
- 飲泉は決められた場所で、源泉を直接引いた新鮮な温泉を飲用すること。
※専用の飲泉口のみ飲用可能です。
- 温泉飲用の1回の量は一般に100～150ml程度とし、その1日の総量はおおよそ200～500mlまでとすること。
- 飲泉には、自身専用又は使い捨てのコップなど衛生的なものを用いること。
- 飲泉は一般に食事の30分程度前に行うことが望ましいこと。
- 飲泉場から飲用目的で温泉水を持ち帰らないこと。
- 飲用する際には、誤嚥に注意すること。
※誤嚥とは、うがいや焦って飲むことなどにより、肺や気管に水分を吸い込んでしまうことをいう。
なお、嚥下障害を発症している人は飲泉を行わないこと。